

総務産業委員会報告書

令和7年4月9日

備前市議会議長 西上 徳一 様

委員長 森本 洋子

令和7年4月9日に委員会を開催し、次のとおり調査したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	調査結果	備考
1 安全・防災についての調査研究	継続調査	——
2 都市計画についての調査研究 ① 図書館建設及び運営管理について	継続調査	——
3 上下水道事業等についての調査研究	継続調査	——

<報告事項>

- 税制改正（専決処分）について（税務課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
閉会中の継続調査事件	3
安全・防災についての調査研究	3
都市計画についての調査研究	4
上下水道事業等についての調査研究	8
閉会	14

総務産業委員会記録

招 集 日 時	令和7年4月9日（水）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午前10時41分	閉会
場所・形態	委員会室	閉会中の開催		
出 席 委 員	委員長	森本洋子	副委員長	
	委員	尾川直行		石原和人
		山本　成		松本　仁
		内田敏憲		
欠 席 委 員		丸山昭則		
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等		議長		
傍 聴 者	議員	なし		
	報道	なし		
	一般	なし		
説 明 員	危機管理課長	菊川智宏		
	総務部長	石原史章	税務課長	星尾雄二
	産業建設部長	梶藤　勲	都市計画課長	井上哲夫
	上下水道課長	杉本成彦		
	文化スポーツ部長	竹林幸作	図書館活動課長	杉田和也
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○森本委員長 ただいまの御出席は6名でございます。定足数に達しておりますので、これより総務産業委員会を開会いたします。

***** 報告事項 *****

まず、報告事項から行いたいと思います。

○星尾税務課長 税務課から、税制改正について3点御報告いたします。

まず1点目でございますが、備前市税条例等の一部改正についてでございます。

これは、地方税法等の一部を改正する法律が令和7年3月31日に公布されたことに伴い、市税条例等を改正するものでございます。

主な改正点といたしましては、総排気量が125cc以下で最高出力を4.0キロワット、50cc相当以下に制御したバイク、これを新基準原付バイクといいます。これに係る軽自動車税種別割の税率を、年額2,000円、現在の50cc原付と同額とするものでございます。

次に、2点目、備前市国民健康保険税条例の一部改正についてでございます。

こちらは、地方税法施行令等の一部を改正する政令が令和7年3月31日に公布され、4月1日から施行されたことに伴い、賦課限度額の引上げを行うものでございます。

主な改正点といたしましては、高所得層の負担上限額を引き上げるもので、引上げ額といたしましては、賦課限度額を、現行の106万円から3万円増の109万円に改める内容となっております。

次に、3点目、備前市地域経済牽引事業の促進に係る固定資産税の特例に関する条例の一部改正についてでございます。

これは、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律第26条の地方公共団体等を定める省令の一部を改正する省令が令和7年4月1日に施行され、適用期間が令和7年3月31日から令和10年3月31日に3年間延長されたことに伴い、市条例を改正するものでございます。

以上、3点の条例改正につきまして、令和7年3月31日付で専決処分を行いたいと考えております。そして、次の議会で報告し、承認を求める予定としております。

○森本委員長 この件に関して質疑のある方。

○石原委員 1点目、2点目、日本中の自治体でこういう形で施行令改正に伴う専決処分が全国一斉にされているのか。

○星尾税務課長 確かめたわけではございませんが、大方、専決処分で行ってるかと思います。

○森本委員長 ほかの方でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で報告事項を終わらせていただきます。

それでは引き続き、閉会中の継続調査事件を行います。

***** 安全・防災についての調査研究 *****

まず、安全・防災についての調査研究を行います。

本件については、尾川委員からの御提案であります。

○尾川委員 1件目が、今、山火事の問題が起きとって、私も身近なところで、市民から野焼きの相談、苦情があり、その辺の対応について、今後の山火事対策、最近大きな山火事が、鎮火しないという、市としての対応についてお伺いしたい。

○菊川危機管理課長 私も以前、東備消防組合に2年ほど行っておりまして、そちらのほうでも、やはり野焼き、特に冬場から春にかけて警戒をしておりました。その原因、その他火災とかの原因については、やっぱり野焼きがほとんどであったというふうに認識しております。その火災予防についても力を入れておりました。実際に、そういった期間、11月の火災予防週間があるんですが、それ以降、そういった巡回等、それから広報活動を強化しております。それに合わせて、市でも、広報、ホームページ、それから防災行政無線、それから市のLINE、それから消防団においても、そういった予防週間とか、年末夜警とかで火災予防の啓発を行っております。

○尾川委員 春先は、結構年寄りが野焼きして、それが消えないで焼け死んだりする例も聞いたことがある。いろいろ御努力いただいているけど、危機管理課としての対応について、今説明があったけど、市の広報車が動くのか、それとも東備消防組合の広報車が動くのか、市民からは広報活動ををもっとしっかりしたほうがいいという提案があるので、その辺についてお答え願いたい。

○菊川危機管理課長 おっしゃるとおりだと思います。今後、そういった予防に対する広報等、今までも行っておりますが、これからさらにまた東備消防組合とも連携しまして、それを強化してまいりたいと思います。

○尾川委員 環境的に備前市の山火事と、仮に玉野市とか愛媛、山火事に対しての環境の違い、あそこまでは大きくならないとか、どうお考えかということと、消防団のホースが足りない、テレビで岡山が愛媛だったか忘れたけど、ホースが足りないと、ホースも有限じゃないから、用意はできないと思う。何もかにも用意をというて、要らん金使うわけにいかないと思うけど、そのあたりについての問題提起方々、どのようにお考えか願いたい。

○菊川危機管理課長 先ほど1点目の岡山市、それから玉野と、地理的なものというのは、実際に気象条件とか、やっぱり湿度とか、そのときの風向き、風の強さ、そういったことがこういった大火になる原因であろうかと考えております。

あと、消防団のホース等、装備品につきましては、ホース自体は、私もちょっと以前、日生支所にいるときに、消防団の担当しておりましたので、そのときは、ホース自体は充足していたかなというふうに認識はしております。不足というか、分団のほうから、そういったホースを支給ということであれば、たしか配付していたと。それから、年次的にそういった在庫切れがないように購入していたというふうには、たしかそのときには伺っております。それについては、また

今改めて確認しようと思います。

○尾川委員 ホースもホースだけど、団員の充足、私らの近所も、前は3部あったのが1部か2部になり、定員もかなり減ってきていると思う。そのあたりも課題として、地域の自主防災組織の充実を図るとか、いろんな方法があると思う。団員不足とか、地域の防災体制をどのようにするのか。地震とか風水害の対応は結構進んでいる地域もあるけど、団員の問題とか、その後を支える年寄りグループをどうしていくかということを、御検討願いたいと思うけど、何かあったらお願いします。

○菊川危機管理課長 おっしゃられるとおり、消防団に限らず、人口減少の中、担い手の不足というのは大きな地域における課題だと認識しております。

実際に、今団員数が、1月1日時点で約900名ということで伺っております。減っていくというのは、もう人口は減っていくので、なかなかそれを増やすというのは難しいかなと思いますけど、やっぱりその地域で、実際に地元におられる方については、恐らく消防団のほうからいろいろな声かけして、できるだけそういった団員の確保には恐らく努められていることと思っております。実際に、そういった火事、有事の際には、やっぱり地元、先ほど言われた自主防災組織であるとか、そういったものが、町内会とか地区とイコールだと思うんですが、重要であると考えております。

私も以前、何年か前に、近所で林野火災が夜中にあったんですが、消防団ではなく、本当に地区の町内会の方が初期消火して、東備消防が来たときには鎮圧状態になっていたということもありましたので、やっぱりそういった地区、自主防災組織に対する、そういった日頃からの声かけであるとか訓練とか、そういったものについては促して、協力して、そういった有事の際に対応していく、そういった体制を構築できていければと考えております。

○石原委員 香登地内でも、冬から春にかけて、休耕田に一気に燃え広がったというのがあったけど、団員が幾らおっても、日中ほぼいないですから。それこそ、OBの方が消火栓からホースを延ばしてつないでというのに出くわしましたけれども、まさしくおっしゃるとおりで、いかに地域も皆さんに、消火栓についてとかというところの周知も必要と。

それから、野焼きに関してですが、数年前に農業系の部署か、環境系の部署かで条例改正か何かありましたかね。野焼きに関することが加えられたかと、中畑課長がおられた頃。また機会があったら、野焼きに関してですけども、教えてください。

○森本委員長 ほかの方で。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、安全・防災についての調査研究を終わります。

***** 都市計画についての調査研究 *****

次に、都市計画についての調査研究を行います。

まず初めに、図書館建設及び運営管理については、尾川委員からの御提案です。

○尾川委員 来年の3月末完成と言っていたが延びるということで、計画というのは何の計画な
らということになると思う。新たに担当者が替わられたので、どういう心構えで、もう仕方な
い、資材が足りない、人がいない、なるようにしかならないと言うのか、それとも納期は何とか
して守っていくという信念を持つとられるのかお聞きしたい。

○井上都市計画課長 図書館新築工事の進捗について説明させていただきます。

前年度に、委員会等でも報告させていただきました地中障害物につきましては、2月中に撤去
が完了しました。その後、矢板打設を行い、現在はいく打ち工事を行っています。くい長は12
メートルで、52か所に打設する設計としており、3月末にくい打ちに着手し、今月10日には
全てのくい打設が完了する予定となっております。現時点では、予定どおりの長さで支持層まで
到達し、問題なく施工できています。今後の作業としまして、来週から基礎の掘削工事に取りか
かる予定としております。

○尾川委員 工程はどうやってリカバリーしていくか。市民は当てにしている人もおるから。何
とかカバーしていくという、例えば土日、難しいところもあると思うけど。今くい打ち、アルフ
ァビゼンがどのくらいのメートルで打ち込んでいるから、この辺の片上地区のパイル、岩盤まで
行くのはどのくらいというのを大体推察して用意していつているわけだけど、要するにカバーで
きないのか、それともこの遅れは、もう何か月も遅れるということは、既成の事実としては認め
ないといけないのか、お聞きしたい。

○梶藤産業建設部長 委員のおっしゃられるように、工程というものは、安易に延ばすのはいか
かなものかということに対しましては、言われるとおりでございます。

この工程につきまして、2月の議会におきまして、補正で、一応延びるという話をさせてもら
って、来年3月末にはちょっと難しいという話はさせてもらっております。

その中で、今回、地中障害物が出たということで、工期の遅れが想定できておるのですが、
委員おっしゃられるように、安易にそのまま延ばしていいものかということもありますので、業
者とは、毎週、工程についても会議をしております。その中で、今までの工程を組んでいるもの
について、幾らか重ねてできるものがないとか、そういう話も常に行っておりますので、地中
埋設物の撤去で延びた部分の工程について、できるだけ元の工程に近づけるような形で努力して
まいりますので御理解いただけたらと思います。

○尾川委員 少し納期が遅れるという表現になると思う、立場上、建前的には分からないことは
ないけど。水面下で頑張ってくれていると思うけど、やっぱり市民に公表している以上、納期の
設定の問題があるかもしれないけど、そのあたりもう少し。特に美術館は感じて、市民との約束
だと思う。一方的にいつまでに造ると言うという、それを守れないというのは、問題だというこ
とを感じてしつこく言っている。最初のうちは、担当者が、アルファ、図書館、美術館もやる
と、3つも4つも兼務して、とてもじゃないけど、そんな大きなプロジェクトを1人でできるわ
けないと思う。毎日現場の事務所へおるぐらいじゃないと。お任せで、たまに行って聞いていた

んじゃ、とてもじゃないが絶対できないと思う。担当者決めて、立ち会って、毎日どんなかと進捗聞いて、チェックしていく。課題を解決していかないと、請け負っているからというて、そんなものではないと思う。

約束して公表して、チラシ作って、いつ完成すると言ったら、それを守るように、みんなが頑張ってやらないと。今は働き方改革で、土曜日、日曜日、夜も寝ずに仕事させるという大問題になるけど。そしたら4月12日の設定がどうだったのか疑いたくなる。そういうことを守っていくということをやはり、議決したら、納期というのは、裏腹に、当然あると思うから、その辺でしつこう言うけど。とにかく進捗チェックをしてほしいというのが、進めていくべきでないかと思うので、何か考えがあったら。

○梶藤産業建設部長 委員おっしゃられるように、職員が複数の施設を担当することになりましたら、かなり負担も増えてまいります。その中で、工事ごとに、設計業者に基本的には工事監理者という形で、監理のほうも手伝っていただいております。施工業者と市役所、それと監理者、この3人の中で協議を進めながら、工程的にも、あと仕上げ的にもいいものにしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○尾川委員 ボランティアについては。

○杉田図書館活動課長 まず、ボランティアにつきましては、現在、新図書館ワークショップ等で御意見をいただきながら、こういった形で進めていくか、あるいは他市町村のボランティアの方々がこういった活動しているかということを研究させていただいて、今後募集をしていきたいと考えております。

○尾川委員 一番は、担当者の方はよく御存じで、予算も認めているわけだから、どういうふうに使っていくかというソフト面の、市民はもう心配して、誰が来るんと言っている。今からでもちゃんと段取りして、市民の意識を高めていって、一人でも多く、図書館、本屋がないから本読む人がいなくなるというて、新聞も書いているのは皆さんも知っているとおりで、国も動こうかとしているわけだから。その危機感を持って、せっかくあれだけのを造って、どういうふうに使っていくかということを、どういうふうに人を盛り上げていくか。今からでも、よその図書館の管理はどういうふうに行っているかと、遅いかもしれんけど。だけど、瀬戸内市の図書館、知っとられると思うけど、いまだに6,500円の会費で、2か所ぐらい、図書館見学をずっと年に一遍ぐらいやっている。まだそれでもローリングするとか、ねじ巻きしているわけ。そういうことを、まだまだこれから使う子供たちに、中学生、高校生、小学生にもどういうふうに使うていくかということを、やっぱり利用者の啓発を、造るほうも大事じゃけど、使うこともかなり踏み込んだ形でやってもらいたい。それを誰が指揮、采配する人が必要だという話をしているので、具体的にいないなら、担当者が考えて、もう自分で采配してやればいいと思うけど、その辺のことについてお聞きしたい。

○杉田図書館活動課長 新しい館長につきましては、外部からの招聘ということで、それを中心

にして検討して行っていることとなっております。また、ボランティアにつきましては、先ほど瀬戸内市の例が出ましたが、私もお聞きしたのは、もみわフレンズさんですか、そういったところが中心になって図書館を盛り上げてくれているというふうにお聞きしていますので、そういった活動も参考にしながら、今後進めてまいりたいというふうに考えております。

○尾川委員 いろいろ意見を聞くが、今までの既成概念のルールじゃなしに、新たな人を開発して、活用するか、そういう格好もやらないと、もう必ず前、誰、何とか委員とかなんとかが継続してやって、新たなものが入ってこないというのが。新たな人を入れても、なかなかそう簡単に人おらんし、今日の新聞にも出ていたけど、人手不足で祭りもできない、情けない話しかないけど。それを、やっぱりやってもらわないと、担当者やったら、前やっていた誰々さん、誰々さんにやってもらえばいいわというんじゃなしに、新たな人を開発してやっていただくことを、再出発ぐらいにしてもらいたいと思うので、その辺の考えを教えてください。

○杉田図書館活動課長 ボランティアの方につきましては、現在活動している方ももちろん大事にしていきたいと思っておりますし、新しい方も当然必要になってくると思います。先ほど申し上げましたが、いわゆるワークショップですか、こちらはどなたでも参加できるような形になっています。そういった中から新しい方が出てきてくれればよろしいかと考えております。

○尾川委員 ワークショップの話が出たけど、どのくらいの人数に参加してもらえたらいいと思う、担当者としたら。どのくらいを目標値に。多ければいいというものではないと思うけど、どういう数が適当かと思いながら、私も参加させてもらっているけど、どういう考えを持っとられるのか、お聞きしたい。

○杉田図書館活動課長 前回のワークショップは、大体五、六名に分かれて、その中で行ったというふうにお聞きしております、参加者は16名とお聞きしています。適当な人数かどうかというのはなかなか難しいところですが、もう少し多くてもよかったかなというふうには思っております。

○尾川委員 あと最近の子供たちに、こども読書まつりの会合に、大勢の方に集まってもらえたというのは、どういう解釈というか、考えられているのか。写真見たら、市民センターの2階、第1会議室が親と子供で満員に集まっって、超満員で、あとの参加希望は断った状況ということを知ったけど、どう評価されているのか。

○杉田図書館活動課長 人気のある絵本作家に来ていただければ、参加者も多く増えるということで、盛況だったのかなと思っております。従来からこの事業を続けておりますので、今後も続けてまいりたいなというふうに考えております。

○石原委員 結局、新図書館の開館、オープンはいつを目指しているのか。

○梶藤産業建設部長 議会でも答弁させてもらっている内容ですが、一応夏というざっくりとした表現で、今はさせていただいております。

○石原委員 令和8年度夏。

○梶藤産業建設部長 はい。

○石原委員 今現状、備前市内には図書館司書は何人ですか。

○杉田図書館活動課長 現在、司書は5名います。

○石原委員 せんだっての一般質問で、規模感や蔵書数は、近隣でいえば瀬戸内市さんの図書館とほぼ同程度と。維持管理費、大まかな見積り、参考値として年間約五、六千万円。それから、瀬戸内市さんが会計年度任用職員、正職員も含めてか9名の記憶があるが、今現在、5名の方がおられて、その方々が引き続きお勤めになれるか分かりませんが、先ほどボランティアのお話はございましたけれども、重要なのは人員確保に向けて、夏のオープンに向けてどういったスケジュール感でしっかりした方を採用、職員の採用に向けてのスケジュール感、想定をお聞かせいただければ。

○杉田図書館活動課長 職員数につきましては、まず公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準というのがございまして、備前市の例で当てはめると、14人という数字が出ております。瀬戸内市さんが、同規模で15人の職員数がいらっしゃるということですので、ほぼ同じぐらいの人数になっているのかと考えております。

この職員募集につきましては、まだ具体的なものは決まっておりませんが、正職員と会計年度職員を組み合わせで募集したいというふうに考えております。

○石原委員 基準としては14名で、瀬戸内市さんが15名、仮に今の方が引き続きおつきいただけたとしても、まだ10名、資格を持たれている方が必要になるから、昨今いろんな分野で人材不足という課題もあるので、施設建設と併せて、しっかり歩を進めていただきたい、要望をお願いさせていただきたい。

○森本委員長 ほかの方でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で図書館建設及び運営管理についての調査を終わります。

***** 上下水道事業等についての調査研究 *****

上下水道事業等についての調査研究に入りたいと思います。

これは、私から上げさせていただいております。前回の議会のときに、議員と担当部長とのやり取りの中で、厚労省から国土交通省に移管になって、補助金も対象がしっかりもらえると思ったらそうではなかったというお話があり、水道単体で改修するに当たっては、厚労省の補助がそのまま残っているという状況になって、備前市の経営状況が悪いということではないのでなかなか補助がいただけないという状況であるという御説明がありました。この際、その辺に関しても含めて、しっかり上下水道関係の管路のお話をお伺いしたいと思ひまして提案させていただきました。資料も御準備していただいておりますので、まず資料に沿って杉本上下水道課長から御説明をお願いしたいと思います。

○杉本上下水道課長 上下水道施設の耐震化ということで、これは国土交通省が出しております

資料を、今回持ってこさせていただきます、この説明をさせていただきたいと思います。

まず1点目、上下水道システム（急所）の耐震化、この急所というのが、その施設が機能を失えば、システム全体が機能を失う最重要施設ということでございます。

それから2点目が、災害拠点病院、避難所、防災拠点など、重要施設に接続する上下水道管路の一体的な耐震化ということでございます。このポイントといたしましては、水道について、資本単価要件、これが従来の財政的な部分の要件に加えて、耐震化の取組を加速する自治体を支援対象に追加ということでございます。

それから次に、取水施設、浄水場、配水池、重要施設に接続する配水支管の耐震化事業の補助率を上げということで、従来4分の1であったものが3分の1となっております。

続きまして、急所である導水管、送水管の耐震化について、布設後の経過年数にかかわらず、支援対象に追加ということでございます。

続きまして、上下水道システムの急所の耐震化を個別補助化ということでございます。下の図を見ていただきますと分かりやすいと思いますが、水道のほうでございますと、取水施設から浄水施設、それから送水管、配水池までが上水道の急所施設ということでございます。それから、重要施設に接続する管路など、基幹管路であったり、災害拠点病院とか避難所などにつながっている管路がこれに該当いたします。それから、下水道につきましては、急所施設ということで、ポンプ場から下水処理場が、これに該当いたします。それからもう一つ、これも上水道と同じでございますが、重要施設から下水処理場直前の合流地点というところが、重要施設に接続する管路になります。

先ほどの上水道につきましては、資本単価の要件というものがございます。この計算の仕方で、20年間の有収水量が分母になりまして、分子が、これも同じく20年間の減価償却費と支払い利息ということで、この資本単価というものが計算できます。

採択要件でございます、この資本単価といいますのが90円、1立米当たり90円以上ということでございます。備前市の令和7年度の資本単価、これはもう概算ですが、おおむね85円程度でございます。今のままでは、前回の答弁、一般質問のときの答弁と同じ内容にはなりますが、国庫補助の採択要件を満たしていないような状況となっております。

あと、これにつきましては、国のほうにも要望活動をさせていただいておりまして、この間も、岡山県の市議会議長会で、水道施設の耐震化に関する支援の要望だとか、それから岡山県の市長会のほうでも、同じように水道施設の耐震化に係る補助率のかさ上げと採択要件の基準について要望をさせていただいているところでございます。

○森本委員長 委員の方から、何か御質問ありますか。

○尾川委員 水道にしても下水道にしてもいろいろ計画があります。担当者として、それを明確に市民に公表するというのは非常に困難と思うけど、これを見て、最近の能登、それから南海トラフの巨大地震絡みで、備前市はそんなことはないかもしれないけど、水やトイレというのが、

最近物すごく出てくる。トイレも、マンホールトイレにするというても、やっぱりトイレの本体が壊れてしまったら使えないと、新聞も書き立てるし、一番心配なのは、備前市の状態を、計画はいっぱいあって、遅れているというのは、何となく分かる。、担当者となれば、全部明確にできないというのは現実論としてはあると思うけど、今この補助金補正で、4分の1が3分の1と、一般的に手を出せる状況なのかということと、本当に一番にしないといけないのがどこにあるかというのを、計画書はいっぱいあるが、もう全部読み切れない。それをどういうふうに市民に説明していったらいいのかというのを悩むわけじゃ。どこまでやる必要があるのと。その辺について、非常に答弁難しいけど、教えてもらえたら。

○杉本上下水道課長 今、委員の御指摘のとおり、財政的にも、昨年までメインの工事でありました浄水場の耐震化ということで、財源もあまり裕福ではない中で、実際どのような管路の整備の仕方をしていったらいいのかということにつきまして、今年度、ちょっと時間をいただいて、具体、基本的には、先ほど申しあげました重要給水施設、それから基幹管路というところで、その中でも、現実的にできるところを選んだり、優先的に進めていくような場所につきまして、例えば、その中でも、液状化、地震による液状化とかというような要因もあると思いますので、現実的に、最優先にやっていかないといけない部分について、ちょっと優先順位を考えさせていただけたらなと思っております。

○梶藤産業建設部長 今、課長のほうから資本単価の話があったと思うんですけど、それが一番水道事業では問題になっている部分です。といいますのが、先ほど尾川委員から、補助率が、じゃあ4分の1が3分の1になってどうなるのかという話があったんですけど、資本単価が90円、うちが大体85円というのは、まだ余裕がある団体と見られているわけです。そういう団体であつたら補助がつかないんですよ。それが一番の問題です。水道事業の問題というのは補助がつかないと。厚生労働省から国交省になって何かよくなるんじゃないかという期待があるというのは、下水道のほうは補助が出るんです。そういう経営状況関係なしに。だから、厚生労働省から国交省になったときに、そういう経営状況関係なしに補助金が出るような補助になるんじゃないかという期待を、まだ私どもも持っていたわけです。それが、やっぱりまだ全部補助が出るというような状況ではないというのが一番の問題で、その辺を、課長も要望活動しているという中で、同じような形で、例えば資本単価の基準を90円より下げるとか取っ払うとか、そういう要望活動を国のほうにお願いしているという現実です。

○尾川委員 今話いろいろ聞いていたら、水道料金の問題もあるし、それからどこからやったほうがいいのか。能登の話聞いたら、非常に水道とトイレはすごく。その辺から、備前市として、市民が心配しているのが、何か建物ばかりに行って、水道とか下水とかインフラ整備を手抜きしているのではないかと。今いろんな条件で補助金が出る話、出ないという現実からしたら、それで手がつかないといっても、計画はいっぱいずっとあるわけじゃ。坂根の耐震化はしたと。何ぼ本体があつたって、管が壊れたらどうにもならないので、そのあたりある程度解き明かす、計画

書がいっぱいあっても、耐震化率見ても、よそと比べてちょっと劣っているのかと思うぐらいにしか分かっていないので、その辺をある程度明確に示してもらえたらと思う。

○杉本上下水道課長 耐震化率も、今御指摘いただいた管路の耐震化と、それから施設の耐震化率とかというものがございます。施設の耐震化率で、浄水場、備前市の場合、3つございます。そのうち1つ耐震化が完了したと。それから、配水池の耐震化率でございますが、これは比較的進捗しておりまして、ちょっと正確な数字は覚えていませんが、約7割程度の耐震化率となっております。管路のほうの耐震化率、手元にちょっと資料を用意するのを忘れて申し訳ないですが、耐震化率自体あまりよくなかったようにちょっと記憶をしております。

耐震適合率という呼び方をするものでございますと、おおむね3割程度の耐震化、耐震適合ということになっておりますので、これを、ちょっと具体的に今すぐ何%までに持っていくますよというのはなかなか言えない部分はあるんですが、先ほど申し上げたように、ちょっと優先的にやっていく部分を検討させていただきまして、向上を目指していきたいなと思っております。

○梶藤産業建設部長 先ほど、私どもが御用意してもらったこちらの資料で、急所施設があると思うんです。急所施設の中の、水道でしたら浄水施設と配水池という中で、今杉本課長が、浄水施設と配水池は耐震化のほうはかなり進んでいると。浄水池のほうは、昨年完成した部分でかなり進んでいると思いますので、尾川委員からも、浄水池が使えても管が駄目になったらいけないかというような御指摘もあったんですけど、管路の場合は比較的早く復旧ができます。ですが、浄水施設がやられた場合は、例えば復旧に1年とか、そういう形で日数を費やして、かなり市民の方に御迷惑がかかると思うんですけども、その辺では、ここで、かなりの安心度が増しているんじゃないかなと、担当のほうでは考えております。

○尾川委員 2月議会、最後に緊急質問があり、結果発言できなかったが、内容的にどうかということ。

○梶藤産業建設部長 その質問にあった時、私はこちらの立場ではなかったんですけど、ちょうど日生の梶谷のところから、ポンプ場から、それこそ下水処理場に向かう管路についての破損と伺っております。そちらの管路につきましては、下水管につきましては、末端の圧送管なんで、止めても、もう市民生活にすぐに影響は出るものではないです。というのが、ポンプといいますのも、ポンプにたまって、それから水を送って、たまって送ってというタイムラグが必ずあります。その中で工事を行いますので、切り離して、取り付けられたポンプが止まっているときに作業が進めれたり、市民生活に影響が出るような破損ではなかった。道路上なので、例えば陥没とかということに対しては危ないですけど、例えば水道が止まって断水とかというような状況の管路ではなかったというのはあります。あと、そこについては、かつてもあって、そこまでの影響もなかったという担当者としての、今までの経験値もあったというふうな形で伺ってますので、今回の管路の破損が市民生活に大きく影響が出るというようなものではないという判断で、担当のほうは進めていったということでございます。

○内田委員 知り合いから質問があり、ある資料が郵便で送ってこられました。その中で、今のところと、友延で水道管が破裂したということを、写真が載っていたのを見せられたが、その状況等、今どうなっているかお聞きしたい。

○梶藤産業建設部長 今、委員言われたのが、私どもと同じでしたら、ちょうど伊里川に架かっている伊里駅付近の、浜の川橋という橋に懸架されている管路の破損と認識しております。そちらにつきましても、かなり経年しているという部分でありますので、当然古くなった管路つきましては、損傷があるということで、それについての補修工事は終了しております。

基本的に、改良計画に入っていない部分については、破損した場合も、破損が分かった時点で漏水修理という形での対応となっておりますので、大きな影響が出てない部分ではないかなとは認識しております。

○内田委員 昨日、認定こども園の入園式があつて、その帰りにそこを。ちょうど昼前に工事が始まって、午後、そこを通る機会があつたので、もう工事が終わって帰っているなど、もう終わっているという認識で帰ったら、たまたま広報紙みたいなを見て、伊里が大変なことになっていると、それで私も水が飲めなくなるのかなという認識でおったら、昼前に始めて昼過ぎには終わってしまったから、ああそんなものかなと。しかし、市民の方は大変心配している方もおられましたので、どうなのかなという思いで質問させてもらいました。

○梶藤産業建設部長 水道工事ににつきましては、管路をそのまま生かした状態で、包み込むような形で補修ができる場合があります。その場合は、かなり早く補修は終了しますので、今回の場合はそれに該当したのかなと。ある管路を切ってつなぎ合わせたりするんでしたら、ちょっと手間かかって御迷惑がかかることもあるんですけど、それではなかったような感じです。

○石原委員 管路も次々老朽化も進みましようけれども、下水道施設は、市内で8か所、備前、三石、日生、吉永、大股、新庄、頭島、大多府で、こういった施設の設備はしっかり大丈夫な形で安心して稼働されているのか。

○杉本上下水道課長 今現在、計画的にストックマネジメントという計画がございまして、それに基づいて、順次、整備を進めていくような形にはなっています。

現実的には、やはり施設ですので、急な故障だとか、そういうようなものの対応は、緊急対応といえますか、そういうものはやっております。

○石原委員 もう問題なくということでよろしいか。安心しとって。

○杉本上下水道課長 今現在、今年度も計画的に補修をする予定ではございます。

○石原委員 別段、設備に不具合があるという状況じゃないと。

○杉本上下水道課長 不具合といいましても、設備、例えばポンプでありましたら、予備の代替機とかというようなものがございまして、応急の一時的な対応というのは、修理をしたり対応はしておりますが、基本的には計画的に整備を進めていくというような状況であります。

○石原委員 南海トラフも、震源の位置にもよるけれども、備前市も最大で震度6弱ぐらいの想

定なので、その程度の地震が発生した場合、さっき言われた耐震化を幾ら進めていても、どういう状態に陥るのか想像もつかないようなことになるわけですが、上水道は先ほど耐震化率のお話がありましたけれど、下水道の施設、下水道の管路についての耐震化はどうしていかれる。まずは上水道の耐震化を進めて、下水道はその後になるのかどうなのか、お聞かせいただければ。さっき計画的なようなことをおっしゃっておられたが。

○梶藤産業建設部長 下水道管の耐震化率というのは、基本的には出していないと思います。下水道を整備する上で、もともと耐震に対するものとして、マンホールと管路の接続部分を稼働できるようなゴムジョイントでつなぐとか、そういうもので耐震化を上げようというような部分で、管路自体の耐震化というのは、圧送管の部分にはあるんですけど、開削の部分、普通自然流下でしている管路の部分については、耐震管という考えは基本的にはなかったように思いますので、その辺含めて、能登の場合、かなり隆起があったので、管をつないでも隆起したら流れないという状況もあったので、その辺になったら、水道でしたら、隆起しても管がつながっていれば流れますよと。下水の場合は、管がつながっていたとしても、自然流下の場合は流れないので、かなり耐震になっても、入れ直さないといけないということが多いので、ちょっと考え方の部分で違っているのかなとは思っているんですけど。

○石原委員 本当おっしゃるとおり、隆起して、至るところで、管路がぐにやぐにやになったりしたら、幾ら耐震化、更新をされても、もう流れないわけで、特に下水道の場合、難しいというのを実感します。

それから、課長が言われた、あらゆる場面で施策評価のシート、6年度版でも、下水道施設についても計画的な更新というところもうたわれておりますので、どういった計画で進めていかれるようにされているのか、また後刻お聞かせいただきたい。

それからさっき、8つ浄化施設を挙げましたが、令和4年度には、吉永の浄化センターの水処理、電気設備工事がかなり大がかりな1億8,900万円クラスの、これは着実にこの年度で行われたのか。それから、備前浄化センターの電気設備実施設計の予算2,000万円、令和4年度で上がっていましたが、電気設備の更新工事はどうでしたか。

○杉本上下水道課長 また、資料等を用意させていただくということでよろしいか。

○石原委員 はい。

○尾川委員 水道関係の話があって、結論的にはどうなのかよく分からないけど、計画書をつくるというても、また大変な作業になると思うので、要員がいなし。作っても、中身がなければいけないし、その辺の整理は今後どういうふうにやっていくのか。一応、国が示す計画に基づいてやっていっていると思うけど、要するに強靱化があったり、水道計画があったり、あっちこっち出てくるけど、その辺のまとめはどんな感じなのか。

○梶藤産業建設部長 言われるように、いろんな計画が確かにあります。私ども、事業を進める上での必要な部分と、あと今回もいろいろ補助の話があったんですけど、補助金をもらうため

に、そういう計画を立ててないと補助金が出ないというような計画もございますので、当然そういう計画立てて、補助をもらうような形で進めていく必要もございますので、そういうものを立てながら、委員言われるように、整理しながら進めていけたらなと思いますので。私どもちょっと離れている期間もありましたので、その辺確認しながら進めていきたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で上下水道事業等についての調査研究を終わります。

以上で総務産業委員会を閉会いたします。

午前１０時４１分 閉会